10/13

デモクラット

No.245

民主主義学生同盟市大支部機関紙

10/13

死の弾圧に抗し本日
大阪府民集会に決起し佐藤
のサイゴン入りを阻止せよ！

山崎君追悼
佐藤内閣糾弾

3時 学内集会（全大集会室） 5時30分 扇町公園

はじめに

佐トは、一学友の死を踏み台に、一路ベトナムへと侵略外交の途についた！ われわれは、凄惨な機動隊の暴力の前に傷つき、たおれた山崎君に深く哀悼の意を表するとともに、われわれの悲しみを、怒りに、怒りを断固たる組織の意志と、佐ト訪ベト阻止の斗いへ展開せねばならない。 われわれは、山崎君とは、隊列において戦（命運に寄せて）った斗いを展開した。しかし、佐ト訪ベト阻止を共通のスローガンとして、共に斗ったものとして彼の死をうけとめ、彼に唯一報いる道、即ち、われわれの斗いの主要的隊列と固いスクラムで弾圧をはねかえし、侵略者サトを包囲することを果さなければならない。 その時はじめて彼の苦痛にみちた死は、微笑みにかわるであろう。

われわれの今後の斗いは、佐ト訪ベト・訪米阻止の斗いは、かかる意味をもって展開されねばならないし、10・21、11、10斗争の圧倒的な全国斗争として波状的に推進することである。そして11、12における最大の羽田訪米阻止斗争を、更に全国斗争に支えられた羽田現地斗争として貫徹された民主主義運動の集中力を爆発させ、佐トの侵略外交に迫ってゆく斗いを組織し、70年安保前哨戦としての今秋の斗争を斗いぬかねばならない。

われわれは、そのために10、8羽田現地斗争の総括を行い、今后の斗いを確認することこそ、現在の任務であろう。

佐藤訪ベト阻止
羽田斗争の意義

政府・警察権力と一体となって、学生運動の暴徒化を叫びまくる、全てのマスコミは、この羽田斗争の最も本質的問題、即ち、佐トの訪ベトの意味を意識的に隠ぺいし、現時点での日本帝国主義の歴史的反動性をひたかくしにかくし、これを阻止せんとした人民の斗いへの許シャクなき弾圧を、一人の死者と、数十名の重傷者、数百名の負傷者、60名近くの逮捕者を出した凄惨な弾圧をおしかくしている。殺人者であり、暴虐の限りをつくした佐トと日本独占資本の罪を、斗った部隊を「暴徒」と断ることによってすりかえ、国民の反戦世論と学生運動を分断し、学生内部に亀裂をつくりだすことに狂奔している。 この欺瞞を許すことはできない。 ベトナム侵略加担を曖昧にし、自ら「参戦なき参戦国」として、南ベトナム人民を抑圧しようとし、訪ベトを強行せんとし、血の弾圧を行わせた佐ト首相こそ、この事態の最大の責任者であることを看過してはならない。 この事を忘却した全ての議論は、われわれの運動にとって有害であり、反動勢力に手をかし運動の妨害者の役割しか果すものでないことを確認しなければならない。

佐藤は何を意図して訪ベトを行なうのか！

それは決して「和平のため」ではない。佐トが如何に「和平」のポーズをとっているとしても、そのすぐあとでその真意を暴露している。即ち、昨日のオーストラリア訪問に於ける、佐トの「北爆の一方的停止は、和平へ導くものではなく、北ベトナムの侵略がなければならない」「オーストラリアの軍隊派遣は、戦争の早期終結のため」という発言は、明らかに「和平」が韓国型の「解決」であり、南北分断と南ベトナムへの米

（つゞく）